

令和5年度 病害虫防除情報

令和5年7月21日

発表：福島県病害虫防除所

リンゴ褐斑病の発生が急増しています。感染拡大を防ぐため、散布間隔が空かないように、効果の高い薬剤を散布しましょう。

- 1 対象作物：リンゴ
- 2 病害虫：リンゴ褐斑病
- 3 対象地域：全域
- 4 発生状況等

- (1) 農業総合センター果樹研究所の予察ほ場（殺菌剤無散布）の調査結果では、平年より高い発病葉率となっています（図1）。
- (2) 7月中旬の巡回調査では、発生ほ場割合が県北では平年よりやや高く、県中・県南及び会津地域では平年より高くなり（図2）、一部の園地では、落葉も確認されています（写真1、写真2）。

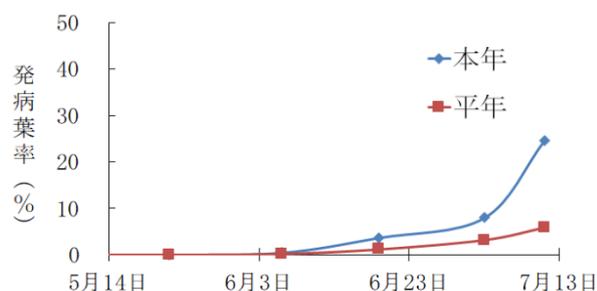


図1 果樹研究所予察ほ場での新梢葉における本病の発生状況（令和5年）

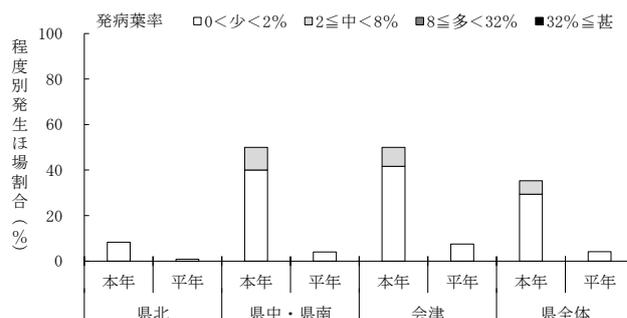


図2 新梢葉における本病の発生状況（令和5年7月中旬）

5 防除対策

- (1) 今後も新梢葉の感染期が続くため、気象経過によっては多発するおそれがあります。モモの収穫期間に入っている地域でも、本病の発生状況を注視してください。
- (2) 発生が多い場合は、表1から選択した防除薬剤を散布し、感染拡大を抑えましょう。なお、トップジンM水和剤は耐性菌の出現が確認されている地域があるため、「平成30年度参考となる成果 (<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/315471.pdf>)」を参考に使用する薬剤を検討してください。また、薬剤系統「C3」の薬剤（QoI剤）は耐性菌が出現しやすいため、連用を避けるとともに、使用回数に注意してください。
- (3) 発生が少ない場合でも、地域の防除暦を参考として、散布間隔が空かないように注意しながら、降雨前の薬剤散布を徹底しましょう。
- (4) 薬剤の散布ムラをなくすため、薬剤散布前に徒長枝の整理などの新梢管理を行い、薬剤は十分な量を散布しましょう。



写真1 本病の樹上での発生状況(7/13)



写真2 本病による罹病落葉(7/13)

表1 リンゴ褐斑病二次感染期(7月以降)の防除薬剤の農薬使用基準
(令和5年版農作物病害虫防除指針286頁参照)

薬剤名	有効成分	薬剤系統	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の使用回数
ストロビードライフロアブル	クレソキシムメチル	C 3	<u>3,000倍</u>	収穫前日まで	3回以内
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	B 1	<u>1,500倍</u>	収穫前日まで	6回以内
ナリアWDG	ピラクロストロビン	C 3	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	ボスカリド	C 2			
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ	C 3	<u>3,000倍</u>	収穫前日まで	3回以内
フリントフロアブル25	トリフロキシストロビン	C 3	<u>3,000倍</u>	収穫前日まで	4回以内
ユニックス顆粒水和剤47	シプロジニル	D 1	2,000倍	収穫14日前まで	4回以内

注) 登録内容は令和5年7月14日現在。希釈倍数・使用量の下線は試験研究成果に基づき、効果的な使用方法を示すものである。

● 情報内容への質問は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課(病害虫防除所)まで御連絡ください。本情報は、病害虫防除所ホームページ(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>)でもご覧になれます。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727